

表 29 4 週間混餌投与試験（ラット雌）における平均検体摂取量

投与群	10 ppm	500 ppm	2,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	0.6	26.1	99.0

試験期間中死亡例はなかった。2,000 ppm 投与群で、試験開始 1 週後に一過性の体重減少が、500 ppm 以上投与群で投与開始 1 週及び 4 週後に摂餌量減少が認められたが、その他卵巣及び子宮重量、肉眼的病理検査、病理組織学的検査及び膣垢検査により発情休止期と判定された動物の血中のホルモン（エストラジオール、LH、テストステロン及びプロラクチン）濃度において、検体投与の影響は認められなかった。

ラットを用いたジクロシメットの性ホルモンに及ぼす影響の検討試験[16. (1) 及び(2)]の結果より、ジクロシメットは性ホルモンに対して影響を及ぼさないものと考えられた。（参照 45）

(3) マウスにおける肝薬物代謝酵素誘導検討試験

マウスを用いた 18 カ月間発がん性試験[13. (3)]において、雄 50 ppm 以上投与群で肝細胞腺腫の増加が認められたことから、ジクロシメットの肝薬物代謝酵素に対する影響を明らかにするために、ICR マウス（一群雌雄各 6 匹）にジクロシメットを 4 週間混餌（原体：0、5、50 及び 500 ppm、平均検体摂取量は表 30 参照）投与し、肝薬物代謝酵素誘導検討試験が実施された。また、比較対照群（一群雌雄各 3 匹）としてフェノバルビタールナトリウム（PB）を 4 週間混餌（500 ppm、平均検体摂取量は雄：71.5 mg/kg 体重/日、雌：87.0 mg/kg 体重/日）投与した。

表 30 肝薬物代謝酵素誘導検討試験（マウス）の平均検体摂取量

投与群		5 ppm	50 ppm	500 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	0.7	7.1	71.5
	雌	0.8	8.4	87.0

50 ppm 以上投与群の雌雄で肝絶対及び比重量の増加が認められた。肉眼的病理検査においては、500 ppm 投与群の雄で肝の腫大及び暗赤色化が、同群の雌で肝小葉構造明瞭化が、50 ppm 以上投与群の雌で肝の腫大が認められた。病理組織学的検査においては、500 ppm 投与群の雄及び 50 ppm 以上投与群の雌で小葉中心性肝細胞肥大が認められた。PB 投与群では、雌雄で肝絶対及び比重量増加、肝腫大及び暗赤色化、小葉中心性肝細胞肥大が認められた。

肝細胞増殖性を検討するために、PCNA 免疫染色を実施したところ、ジクロシメット投与群では肝細胞の増殖亢進は認められなかった。PB 投与群では雌でのみ、肝

細胞の増殖亢進が認められた。

肝のサイトゾル画分及びミクロソーム画分のタンパク量を測定したところ、500 ppm 投与群の雄でミクロソームタンパク量の増加が認められ、同群の雌でも増加傾向が認められた。PB 投与群の雌雄でもミクロソームタンパク量増加が認められた。

肝のチトクローム P450 アイソザイム (CYP) 含量を測定したところ、500 ppm 投与群の雌、50 ppm 以上投与群の雄及び PB 投与群の雌雄で、肝 1g あたりの CYP 含量の増加が認められた。

CYP 誘導分子種を検討したところ、50 ppm 以上投与群の雌雄で、PB 投与群に比べると弱いものの、CYP2B1 及び CYP2B2 の増加が認められた。

本試験の結果から、ジクロシメットの投与による薬物代謝酵素の誘導作用が明らかとなった。本試験条件下では、ジクロシメットによる細胞増殖の亢進は検出できなかったが、CYP2B1/2 の誘導が見られたことから、本剤は肝臓に対して PB と類似の作用を有していると考えられた。

また、酵素誘導作用に対する無影響量は、雌雄とも 5 ppm (雄 : 0.7 mg/kg 体重/日、雌 : 0.8 mg/kg 体重/日) であると考えられた。(参照 46)

Ⅲ. 食品健康影響評価

参照に挙げた資料を用いて、農薬「ジクロシメット」の食品健康影響評価を実施した。

ラットにおける動物体内運命試験の結果、投与後 168 時間に 91.2~103%TAR が排泄され、主要排泄経路は糞中であつた。また糞中排泄の大部分が胆汁中排泄によることが示された。投与 48 時間後における組織中残留放射能は、消化管、肝臓及び腎臓で比較的高濃度であつた。尿、糞及び胆汁中の主要代謝物は、雄では I、L 及び R、雌では I の抱合体及び Q であり、主要代謝経路はフェニル基 3 位の水酸化であると考えられた。

水稻における植物体内運命試験が実施された。植物体中の主要成分は親化合物であり、少量の代謝物 B、D 及び E が存在した。水稻における主要代謝経路は、*tert*-ブチルメチル基の水酸化により D が生成される経路、あるいはシアノ基の加水分解に続き、最終的に E が生成される経路と考えられた。光学異性化は生じないと考えられた。

水稻を用いて、ジクロシメット及び代謝物 B を分析対象化合物とした作物残留試験が実施された。ジクロシメットの最高値は、最終散布 14 及び 21 日後に収穫された玄米の 0.20 mg/kg であつた。代謝物 B はすべて定量限界未満（玄米で <0.01 mg/kg）であつた。また、魚介類における最大推定残留値は 0.021 mg/kg であつた。

各種毒性試験結果から、ジクロシメット投与による影響は主に肝臓に認められた。繁殖能に対する影響、催奇形性及び遺伝毒性は認められなかつた。

マウスを用いた発がん性試験において、50 ppm 以上投与群の雄で肝細胞腺腫の発生頻度が増加した。しかし、遺伝毒性試験がすべて陰性であつたこと及び肝臓における腫瘍の発生機序に関する試験結果から、腫瘍の発生機序は遺伝毒性メカニズムとは考え難く、本剤の評価にあたり閾値を設定することは可能であると考えられた。

各種試験結果から、食品中の暴露評価対象物質をジクロシメット（親化合物のみ）と設定した。

各試験における無毒性量等は表 31 に示されている。

表 31 各試験における無毒性量及び最小毒性量

動物種	試験	無毒性量 (mg/kg 体重/日)	最小毒性量 (mg/kg 体重/日)	備考 ¹⁾
ラット	90 日間 亜急性毒性試験	雄：3.7 雌：4.2	雄：148 雌：165	雌雄：体重増加抑制等
	2 年間慢性毒性/ 発がん性併合試験	雄：0.5 雌：0.7	雄：26.0 雌：33.9	雌雄：一過性の体重増加抑制 (発がん性は認められなかった)
	2 世代繁殖試験	親動物及び子動物 P 雄：0.7 P 雌：0.9 F ₁ 雄：0.9 F ₁ 雌：1.0	親動物 P 雄：14.8 P 雌：18.9 F ₁ 雄：17.7 F ₁ 雌：20.8	親動物 雄：甲状腺絶対重量増加 雌：体重増加抑制等 子動物 雌雄：体重増加抑制 (繁殖能に対する影響は認められない)
	発生毒性試験	母動物：100 胎 児：1,000	母動物：1,000 胎 児：-	母動物：体重増加抑制等 胎 児：毒性所見なし (催奇形性は認められない)
マウス	18 カ月間 発がん性試験	雄：0.8 雌：9.9	雄：8.4 雌：108	雌雄：体重増加抑制等 (雄で肝細胞腺腫発生増加)
ウサギ	発生毒性試験	母動物：60 胎 児：300	母動物：300 胎 児：-	母動物：体重増加抑制等 胎 児：毒性所見なし (催奇形性は認められない)
イヌ	90 日間亜急性 毒性試験	雌雄：100	雌雄：1,000	雌雄：ALP 増加及びび慢性肝細胞肥大等
	1 年間慢性毒性試験	雌雄：50	雌雄：500	雌雄：ALP 増加及びび小葉中心性肝細胞肥大等

1) 備考に最小毒性量で認められた毒性所見の概要を示した。

—：最小毒性量は設定できなかった。

食品安全委員会は、各試験で得られた無毒性量の最小値がラットを用いた2年間慢性毒性/発がん性併合試験の0.5 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として安全係数100で除した0.005 mg/kg 体重/日を一日摂取許容量 (ADI) と設定した。

ADI	0.005 mg/kg 体重/日
(ADI 設定根拠資料)	慢性毒性/発がん性併合試験
(動物種)	ラット
(期間)	2年間
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	0.5 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100

<別紙 1 : 代謝物/分解物略称>

記号	略称	化学名
A	S-2900S (S異性体)	(<i>RS</i>)-2-cyano- <i>N</i> [(<i>S</i>)-1-(2,4-dichlorophenyl)ethyl]-3,3-dimethylbutyramide
B	4-Cl-S-2900	<i>N</i> [1-(4-chlorophenyl)ethyl]-2-cyano-3,3-dimethylbutanamide
C	CONH ₂ -S-2900	<i>N</i> [1-(2,4-dichlorophenyl)ethyl]-2- <i>tert</i> butylmalonamide
D	tBOH-S-2900	<i>N</i> [1-(2,4-dichlorophenyl)ethyl]-2-cyano-4-hydroxy-3,3-dimethylbutanamide
E	α-OH-S-2900	<i>N</i> [1-(2,4-dichlorophenyl)ethyl]-2-hydroxy-3,3-dimethylbutanamide
F	CBA	2-cyano-3,3-dimethylbutanoic acid
G	CBamide	2-cyano-3,3-dimethylbutanamide
H	DCBA	1-(2,4-dichlorophenyl)ethylamine
I	PhOH-S-2900	<i>N</i> [1-(2,4-dichloro-3-hydroxyphenyl)ethyl]-2-cyano-3,3-dimethylbutanamide
J	S-2900-lactone	<i>N</i> [1-(2,4-dichlorophenyl)ethyl]-(4,4-dimethyl-2-oxo-tetrahydrofuran-3-yl)carboxamide
K	α-OH-S-2900 imide	<i>N</i> [1-(2,4-dichlorophenyl)ethyl]-2-hydroxy-3,3-dimethylsuccinimide
L	PhOH-S-2900- lactone	<i>N</i> [1-(2,4-dichloro-3-hydroxyphenyl)ethyl]-(4,4-dimethyl-2-oxo-tetrahydrofuran-3-yl)carboxamide
M-a	α-OH-S-2900- amido-alc.A	1-[1-(2,4-dichlorophenyl)ethyl]-3,5-dihydroxy-4,4-dimethyl-2-pyrrolidone
M-b	α-OH-S-2900- amido-alc.B	
N	tBuCOOH-αOH-S-2900	<i>N</i> [1-(2,4-dichlorophenyl)ethyl]-3-hydroxy-2,2-dimethylsuccinamic acid
O-a	tBuOH-αOH-S-2900- amido-alc.A	1-[1-(2,4-dichlorophenyl)ethyl]-3,5-dihydroxy-4-hydroxymethyl-4-methyl-2-pyrrolidone
O-b	tBuOH-αOH-S-2900- amido-alc.B	
P-a	tBuOH-αOH-S-2900A	<i>N</i> [1-(2,4-dichlorophenyl)ethyl]-2,4-dihydroxy-3,3-dimethylbutanamide
P-b	tBuOH-αOH-S-2900B	
Q	tBuOH-S-2900- sulfate	3-{ <i>N</i> [1-(2,4-dichlorophenyl)ethyl]carbamoyl}-3-cyano-2,2-dimethylpropyl hydrogen sulfate

R	S-2900-imino-ether	<i>N</i> [1-(2,4-dichlorophenyl)ethyl]-(2-imino-4,4-dimethyltetrahydrofuran-3-yl)carboxamide
S	5-PhOH- α OH-S-2900-imide	<i>N</i> [1-(2,4-dichloro-5-hydroxyphenyl)ethyl]-2-hydroxy-3,3-dimethylsuccinimide
T	tBuOH- α OH-S-2900-imide	<i>N</i> [1-(2,4-dichlorophenyl)ethyl]-2-hydroxy-3-(hydroxymethyl)-3-methylsuccinimide
U	PhOH- α OH-S-2900-amido alc.	1-[1-(2,4-dichloro-3-hydroxyphenyl)ethyl]-3-cyano-5-hydroxy-4,4-dimethyl-2-pyrrolidone
V	SCN ⁻	チオシアンイオン

<別紙2：検査値等略称>

略称	名称
ACh	アセチルコリン
A/G 比	アルブミン/グロブリン比
ai	有効成分量
Alb	アルブミン
ALP	アルカリホスファターゼ
APTT	活性化部分トロンボプラスチン時間
Baso	好塩基球数
BCF	生物濃縮係数
C _{max}	最高濃度
CYP	チトクローム P450 アイソザイム
Eos	好酸球数
GGT	γ-グルタミルトランスフェラーゼ (=γ-グルタミルトランスぺプチダーゼ (γ-GTP))
Glob	グロブリン
Glu	グルコース (血糖)
His	ヒスタミン
5-HT	セロトニン
LC ₅₀	半数致死濃度
LD ₅₀	半数致死量
LH	黄体形成ホルモン
Lym	リンパ球数
MC	メチルセルロース
Neu	好中球数
PB	フェノバルビタール
PCNA	増殖性細胞核抗原
PEC	環境中予測濃度
PHI	最終使用から収穫までの日数
PT	プロトロンビン時間
T _{1/2}	消失半減期
TAR	総投与 (処理) 放射能
T.Chol	総コレステロール
TG	トリグリセリド
T _{max}	最高濃度到達時間
TP	総蛋白質
TRR	総残留放射能
WBC	白血球数

<別紙 3 : 作物残留試験成績>

作物名 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量 (kg ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)							
					ジクロシメット				代謝物 B			
					公的分析機関		社内分析機関		公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
水 稻 (玄米) 1997 年度	1	1.5 ^G g ai/箱 + 120 ^D ×2	3	14	0.07	0.07	0.10	0.10	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				21	0.09	0.08	0.11	0.11	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				30	0.16	0.16	0.17	0.16	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				45	0.06	0.06	0.07	0.07	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	1		3	14	0.05	0.05	0.06	0.06	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				21	0.06	0.06	0.07	0.07	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				30	0.08	0.08	0.08	0.08	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				45	0.05	0.05	0.05	0.05	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
水 稻 (玄米) 1997 年度	1	1.5 ^G g ai/箱 + 113 ^{SC} ×2	3	14	0.07	0.06	0.08	0.08	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				21	0.09	0.09	0.09	0.08	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				30	0.15	0.14	0.16	0.16	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				45	0.15	0.14	0.16	0.16	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	1		3	14	0.18	0.18	0.20	0.20	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				21	0.12	0.12	0.15	0.14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				30	0.15	0.15	0.18	0.17	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				45	0.10	0.10	0.10	0.10	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
水 稻 (玄米) 2000 年度	1	2.25 ^{SC} g ai/箱 + 46.9-56.3 ^{SC} ×2	3	14	0.03	0.03	0.02	0.02				
				21	0.04	0.04	0.04	0.04				
				40	0.08	0.08	0.06	0.06				
	1		3	14	0.02	0.02	0.02	0.02				
				21	0.03	0.03	0.02	0.02				
				39	0.04	0.04	0.04	0.04				

作物名 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量 (kg ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)							
					ジクロシメット				代謝物 B			
					公的分析機関		社内分析機関		公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
水 稻 (玄米) 2001年度	1	1.5 ^{SC} g ai/箱 + 50SC×2	3	14	/	/	0.12	0.12	/	/	/	/
	1			14	/	/	0.05	0.05	/	/	/	/
水 稻 (玄米) 2001年度	1	1.5 ^{WG} g ai/箱 + 50 ^{SC} ×2	3	14	/	/	0.06	0.06	/	/	/	/
	1			14	/	/	0.03	0.03	/	/	/	/
水 稻 (玄米) 2001年度	1	1.5 ^G g ai/箱 + 50 ^{SC} ×2	3	14	/	/	0.16	0.16	/	/	/	/
	1			14	/	/	0.05	0.05	/	/	/	/
水 稻 (玄米) 2001年度	1	1.5 ^G g ai/箱 + 41.7 ^{SC} ×2	3	14	0.04	0.04	0.04	0.04	/	/	/	/
				21	0.07	0.07	0.07	0.06	/	/	/	/
				28	0.08	0.08	0.06	0.06	/	/	/	/
				45	0.05	0.05	0.05	0.04	/	/	/	/
水 稻 (玄米) 2001年度	1	1.5 ^G g ai/箱 + 41.7 ^{SC} ×2	3	14	0.04	0.04	0.04	0.04	/	/	/	/
				21	0.12	0.12	0.11	0.10	/	/	/	/
				27	0.09	0.08	0.08	0.08	/	/	/	/
				44	0.02	0.02	0.02	0.02	/	/	/	/
水 稻 (玄米) 2001年度	1	1.5 ^G g ai/箱 + 62.5 ^{SC} ×2	3	14	0.05	0.05	0.05	0.05	/	/	/	/
				21	0.09	0.08	0.08	0.08	/	/	/	/
				28	0.10	0.10	0.10	0.10	/	/	/	/
				45	0.07	0.07	0.06	0.06	/	/	/	/
水 稻 (玄米) 2001年度	1	1.5 ^G g ai/箱 + 62.5 ^{SC} ×2	3	14	0.04	0.04	0.04	0.04	/	/	/	/
				21	0.20	0.20	0.19	0.18	/	/	/	/
				27	0.09	0.08	0.09	0.09	/	/	/	/
				44	0.02	0.02	<0.01	<0.01	/	/	/	/

作物名 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量 (kg ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)							
					ジクロシメット				代謝物 B			
					公的分析機関		社内分析機関		公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
水 稻 (稲わら) 1997年度	1	1.5 ^G g ai/箱 + 120 ^D ×2	3	14	1.68	1.60	2.14	2.10	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
				21	0.79	0.77	0.84	0.84	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
				30	0.84	0.81	0.97	0.96	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
				45	0.32	0.30	0.35	0.34	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
	1		3	14	1.36	1.33	2.02	1.99	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
				21	1.34	1.32	1.78	1.75	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
				30	1.58	1.54	2.52	2.46	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
				45	0.79	0.77	0.94	0.89	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
水 稻 (稲わら) 1997年度	1	1.5 ^G g ai/箱 + 113 ^{SC} ×2	3	14	8.09	7.94	7.96	7.90	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
				21	4.45	4.35	5.75	5.68	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
				30	3.09	3.04	3.21	3.21	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
				45	2.10	2.07	2.98	2.90	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
	1		3	14	2.68	2.66	3.56	3.52	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
				21	2.40	2.36	2.79	2.79	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
				30	2.53	2.52	4.77	4.64	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
				45	1.10	1.09	1.09	1.08	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04
水 稻 (稲わら) 2000年度	1	2.25 ^{SC} g ai/箱 + 46.9-56.3 ^{SC} ×2	3	14	1.24	1.24	1.10	1.07				
				21	1.54	1.53	1.38	1.30				
				40	1.22	1.20	1.12	1.10				
	1		3	14	1.45	1.44	1.31	1.24				
				21	0.65	0.63	0.78	0.76				
				39	0.75	0.75	1.10	1.08				
水 稻 (稲わら) 2001年度	1	1.5 ^{SC} g ai/箱 + 50 ^{SC} ×2	3	14			0.60	0.59				
	1		3	14			0.58	0.56				

作物名 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量 (kg ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)							
					ジクロシメット				代謝物 B			
					公的分析機関		社内分析機関		公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
水 稻 (稲わら) 2001 年度	1	1.5 ^{WG} g ai/箱 + 50 ^{SC} ×2	3	14	/	/	0.67	0.65	/	/	/	/
	1			14	/	/	0.56	0.55	/	/	/	/
水 稻 (稲わら) 2001 年度	1	1.5 ^G g ai/箱 + 50 ^{SC} ×2	3	14	/	/	0.59	0.57	/	/	/	/
	1			14	/	/	0.62	0.61	/	/	/	/
水 稻 (稲わら) 2001 年度	1	1.5 ^G g ai/箱 + 41.7 ^{SC} ×2	3	14	0.68	0.65	0.46	0.44	/	/	/	/
				21	0.66	0.64	0.68	0.65	/	/	/	/
				28	0.65	0.64	0.78	0.78	/	/	/	/
				45	0.90	0.85	0.71	0.68	/	/	/	/
	1		3	14	2.44	2.36	1.35	1.34	/	/	/	/
				21	1.84	1.81	1.24	1.21	/	/	/	/
水 稻 (稲わら) 2001 年度	1	1.5 ^G g ai/箱 + 62.5 ^{SC} ×2	3	14	0.66	0.64	0.70	0.69	/	/	/	/
				21	1.12	1.10	1.26	1.23	/	/	/	/
				28	1.09	1.08	1.08	1.05	/	/	/	/
				45	0.88	0.86	1.36	1.32	/	/	/	/
1	3	14	1.55	1.52	2.02	1.98	/	/	/	/		
		21	1.27	1.24	1.66	1.63	/	/	/	/		
		27	0.84	0.84	0.89	0.88	/	/	/	/		
		44	0.71	0.70	0.69	0.66	/	/	/	/		

注) G: 粒剤 D: 粉剤 SC: フロアブル
 ・すべてのデータが定量限界未満の場合は定量限界値の平均に<を付して記載した。

<別紙 4：後作物残留試験成績>

前作			作物名 (分析部位)	PHI (日)	残留値(mg/kg)	
作物名 報告年度	使用量	回数 (回)			ジクロシメット	
					最高値	平均値
水稲 1995年度	300 ^G g ai/ha 湛水処理 + 120 ^D g ai/ha×3 散布	4	小麦 (種子) 1995年度	274	<0.01	<0.01
			はくさい (茎葉) 1995年度	138	<0.01	<0.01
			だいこん (根部) 1995年度	158	<0.01	<0.01
			だいこん (葉部) 1995年度	158	<0.01	<0.01
水稲 1996年度	1.5 ^G g ai/箱 育苗箱処理 + 120 ^D g ai/ha×3 散布	4	だいず (子実) 1996年度	133	<0.01	<0.01
			きゅうり (果実) 1996年度	66	<0.01	<0.01

注)・散布には G：粒剤 D：粉剤

・すべてのデータが定量限界未満の場合は定量限界値の平均に<を付して記載した。

<参照>

- 1 諮問書（食品健康影響評価について）
（URL：<http://www.fsc.go.jp/hyouka/hy/hy-uke-bunsho-08.pdf>）
- 2 7月1日付けで厚生労働大臣から食品安全委員会委員長へ食品健康影響評価を依頼した事項：第3回食品安全委員会会合資料
（URL：<http://www.fsc.go.jp/iinkai/i-dai3/dai3kai-kouseisyousiryuu.pdf>）
- 3 委員会の意見の聴取要請に関する案件（農薬の食品中の残留基準を設定又は改正することに関する案件）
（URL：<http://www.fsc.go.jp/hyouka/hy/hy-tuuchi-bunsho-12.pdf>）
- 4 農薬抄録ジクロシメット（殺菌剤）：住友化学株式会社、平成19年10月22日改訂、一部公表予定
- 5 ジクロシメットのラットにおける薬物動態（GLP対応）：Huntingdon Life Science Ltd.（英国）、1998年、未公表
- 6 ジクロシメットのラットにおける代謝（資料I-1）（GLP対応）：Huntingdon Life Science Ltd.（英国）、1998年、未公表
- 7 ジクロシメットのラットにおける代謝（資料I-2）：住友化学工業株式会社、1998年、未公表
- 8 ジクロシメットのラットにおける胆汁排泄：住友化学工業株式会社、1998年、未公表
- 9 ジクロシメットのラットにおける組織中分布（GLP対応）：Huntingdon Life Science Ltd.（英国）、1998年、未公表
- 10 ジクロシメットの水稲における代謝：住友化学工業株式会社、1998年、未公表
- 11 ジクロシメットの好氣的湛水土壤中運命試験（水田土壤中における代謝・分解）：住友化学工業株式会社、1998年、未公表
- 12 [¹⁴C]ジクロシメットの好氣的土壤中運命試験（GLP対応）：Ricerca Biosciences, LLC（米国）、2004年、未公表
- 13 ジクロシメットの土壌吸着係数の測定：住友化学工業株式会社、1998年、未公表
- 14 ジクロシメットの緩衝液中における加水分解：住友化学工業株式会社、1998年、未公表
- 15 ジクロシメットの水における光分解：住友化学工業株式会社、1998年、未公表
- 16 ジクロシメットの土壌残留試験成績：住友化学工業株式会社、1996年、未公表
- 17 ジクロシメットの作物残留試験成績：（財）残留農薬研究所、1997年、2001年、未公表
- 18 ジクロシメットの作物残留試験成績：住友化学工業株式会社、1997年、2001年、未公表
- 19 ジクロシメットの魚類濃縮性試験（GLP対応）：Springborn Smithers Laboratories（米国）（2007年）
- 20 ジクロシメットの魚介類における最大推定残留値に係る資料

- 21 ジクロシメットの後作物残留試験成績：住友化学工業株式会社、1996年、未公表
- 22 乳汁への移行性試験：（財）畜産生物科学安全研究所、1998年、未公表
- 23 ジクロシメットの一般薬理試験：住友化学工業株式会社、1997年、未公表
- 24 ジクロシメット原体のラットにおける経口投与による急性毒性試験（GLP 対応）：住友化学工業株式会社、1996年、未公表
- 25 ジクロシメット原体のマウスにおける経口投与による急性毒性試験（GLP 対応）：住友化学工業株式会社、1996年、未公表
- 26 ジクロシメット原体のラットにおける経皮投与による急性毒性試験（GLP 対応）：住友化学工業株式会社、1996年、未公表
- 27 ジクロシメット原体のラットにおける急性吸入毒性試験（GLP 対応）：Huntingdon Life Sciences Ltd.（英国）、1998年、未公表
- 28 S異性体のマウスにおける急性経口毒性試験：住友化学工業株式会社、1996年、未公表
- 29 ジクロシメット原体のウサギの皮膚及び眼に対する刺激性試験（GLP 対応）：住友化学工業株式会社、1996年、未公表
- 30 ジクロシメット原体のモルモットにおける皮膚感作性試験（Maximization 法）（GLP 対応）：住友化学工業株式会社、1996年、未公表
- 31 ジクロシメット原体のラットにおける13週間経口投与毒性試験（GLP 対応）：Huntingdon Life Sciences Ltd.（英国）、1997年、未公表
- 32 ジクロシメット原体のイヌにおける13週間経口投与毒性試験（GLP 対応）：Huntingdon Life Sciences Ltd.（英国）、1998年、未公表
- 33 ジクロシメット原体のイヌにおける52週間経口投与毒性試験（GLP 対応）：Huntingdon Life Sciences Ltd.（英国）、1998年、未公表
- 34 ジクロシメット原体のラットにおける慢性毒性及び発癌性試験（GLP 対応）：Huntingdon Life Sciences Ltd.（英国）、1998年、未公表
- 35 ジクロシメット原体のマウスにおける発癌性試験（GLP 対応）：Huntingdon Life Sciences Ltd.（英国）、1998年、未公表
- 36 ジクロシメット原体のラットにおける繁殖性試験（GLP 対応）：Huntingdon Life Sciences Ltd.（英国）、1998年、未公表
- 37 ジクロシメット原体のラットにおける催奇形性試験（GLP 対応）：Huntingdon Life Sciences Ltd.（英国）、1998年、未公表
- 38 ジクロシメット原体のウサギにおける催奇形性試験（GLP 対応）：Huntingdon Life Sciences Ltd.（英国）、1997年、未公表
- 39 ジクロシメット原体の細菌を用いたDNA修復試験（GLP 対応）：食品農医薬品安全性評価センター、1996年、未公表
- 40 ジクロシメット原体の細菌を用いる復帰突然変異試験（GLP 対応）：住友化学工業株式会社、1996年、未公表
- 41 ジクロシメット原体のチャイニーズハムスター肺由来の培養細胞(CHL/IU)を用いた in vitro 染色体異常試験（GLP 対応）：住友化学工業株式会社、1996

- 年、未公表
- 42 ジクロシメット原体のマウスを用いた小核試験（GLP 対応）：（財）残留農薬研究所、2003 年、未公表
 - 43 S 異性体の細菌を用いる復帰突然変異試験：住友化学工業株式会社、1996 年、未公表
 - 44 ラットの精巣機能及び性ホルモンに及ぼす影響の検討：住友化学工業株式会社、1999 年、未公表
 - 45 雌ラットにおける性ホルモンに及ぼす影響検討試験：住友化学工業株式会社、1999 年、未公表
 - 46 ジクロシメット原体のマウスにおける肝薬物代謝酵素誘導検討試験—毒性発現機構検討試験—：住友化学工業株式会社、1999 年、未公表
 - 47 食品健康影響評価について
(URL : http://www.fsc.go.jp/hyouka/hy/hy-uke-diclocymet_200111.pdf)
 - 48 第 222 回食品安全委員会
(URL : <http://www.fsc.go.jp/iinkai/i-dai222/index.html>)
 - 49 第 13 回食品安全委員会農薬専門調査会確認評価第二部会
(URL : http://www.fsc.go.jp/senmon/nouyaku/kakunin2_dai13/index.html)
 - 50 第 43 回食品安全委員会農薬専門調査会幹事会
(URL : http://www.fsc.go.jp/senmon/nouyaku/kanjikai_dai43/index.html)
 - 51 国民栄養の現状—平成 10 年国民栄養調査結果—：健康・栄養情報研究会編、2000 年
 - 52 国民栄養の現状—平成 11 年国民栄養調査結果—：健康・栄養情報研究会編、2001 年
 - 53 国民栄養の現状—平成 12 年国民栄養調査結果—：健康・栄養情報研究会編、2002 年